

<今回>217回目 2017年8月25(金)15時~18時 601号室

読書は8冊目「邪馬壹国の論理」324P エバンズ夫妻との往復書簡 より

<前回>216回目(17-8-5) 出席者5名

資料 17-08-05-1)前回のまとめ(清水)

A 報告

日下八光氏の装飾古墳の画集を見てもらった。昭和42年10月30日発行、朝日新聞社定価3万円、限定500部、うちの340番。横浜中央図書館。竹原古墳奥壁の複写の馬銜の巨大な角は舟に分離して描かれ(別に角らしきものはある)、天呉の8顔はひとつに描かれている。珍敷塚の奥壁の α 線の上下は一体の絵となっている。写真と複製は異なっているようにも見える。平成18年の珍敷塚古墳訪問時の写真を回覧した。

台風が近づいているようでもあり雨が落ちてきたので、懇親会は無しとした。

B 回覧史料のみ、配布資料 なし

C 読書 p313 四 より

四)海賦は倭人の東方への数奇な航海経験を中国人(魏晋朝官人)が記したもの。舟人漁子が黒潮と太平洋海流に乗り東の極点に行く。海とかげや切り立った断崖のそばをとおり、裸国、黒齒国へ行って帰った。

五)群生、死肉を食らうなどから、猛禽類だが鷲や鷹ではない。毛翼という新語造語でコンドルを表した。

六)三國志魏志倭人伝と海賦の両史料に記されている裸国、黒齒国は同一の領域を指している。それは南米大陸西岸部。①魏晋朝史官の記述である。②倭人からの報告である。③独立した別個の史料である。異域の大陸についての報告を再度に渡って得ていたという事実。まったく異種の依拠史料が奇しくも同一の帰結を指し示した。客観的史実であることを証明したものである。

七)エクアドル・バルディビア遺跡の発見

米国スミソニアン研究所のクリフォード・エバンズ氏、ペティ・ジェイ・メガーズ(エバンズ夫人)氏。エクアドルのエミリオ・エストラダ氏の3人が発見されたもの。C14法でBC3200年ごろの壺と同時期(縄文期)の日本の壺とよく似ている。クリフォードエバンズ氏は「海岸部エクアドルの初期形成時代」の論文で土器片の模様的一致とその本の中の作図が相互に業績は知らないながら太平洋の海洋図は一致していた。

1970年10月16日号ライフ誌の記事(邪馬台国はなかったは1971年)1971年7月23日朝日ジャーナル「古代アンデスの謎」(利根山光人氏)。問題点

- ①倭人の太平洋横断の中国史料は3世紀(日本の弥生時代)、バルディビア土器はBC3200年縄文期と時代が違う。
- ②3世紀の倭人の太平洋横断は3世紀現在の経験か、過去からの伝承か。
- ③バルディビアの土器は本当に日本の縄文人によってもたらされたものか、他の伝承者がいないか。
- ④三國志魏志倭人伝と海賦の史料が3世紀倭人の報告に基づく記録であるとの論証は十分になされていると自分は思うが日本の古代史学会の共通認識になっていない。

次回日程 17-9-1(金) 15時から18時 602号室

9-25(月)15時から18時 603号室

10-6(金) 15時から18時 601号室